

サプライチェーンマネジメント(環境)

方針

大和ハウスグループは、資材の調達や施工などを行うことで、資材の原産地や加工場で働く人々、サプライヤーとその従業員、施工現場周辺の地域社会など、サプライチェーン全体にわたり、地球環境および多様な関係者に影響を与えています。そこで、こうした負の環境影響を低減していくためには、サプライヤーとの協働が不可欠だと考え、モニタリングやトレーニング、共同開発など、各フェーズでの連携を進めています。

2015年7月には、「調達基本方針」「CSR調達ガイドライン」を制定。「調達基本方針」では当社グループがQCD(品質・コスト・納期)に加えて、社会性・環境性についても配慮した調達を進めることを定めています。また、「CSR調達ガイドライン」ではすべての1次サプライヤーを対象に、人権・労働安全・環境保全など、社会性・環境性の包括的な基準を定めています。特に、化学物質管理と木材調達に関しては、具体的なガイドラインや評価基準を定めて、継続的なモニタリングを行っています。

■ CSR調達ガイドライン(環境部分のみ抜粋)

(1) 取引先行動規範

| | |
|----------|--|
| 5) 環境の保全 | 環境と共生し人が心豊かに生きる暮らしと社会の実現を目指し、「事業活動プロセス」および「商品・サービス」の両面において環境負荷の低減に努める。 |
|----------|--|

(2) 企業活動ガイドライン

| | | |
|-----|-----------------------|--|
| 5-1 | 環境関連法令の遵守と社会からの要請への対応 | 国内外の環境関連法令を遵守するとともに、国際社会やステークホルダーからの要請に応えることで、環境への負荷低減と貢献に努める。 |
| 5-2 | 気候変動への対応 | 商品・サービスおよび事業活動プロセス(調達・加工等)において、温室効果ガス排出量削減および省エネルギーを推進するとともに、自然エネルギーの活用にも努める。 |
| 5-3 | 省資源化の推進 | 商品のライフサイクル(生産・使用・廃棄等)において、「リデュース・リユース・リサイクル」の推進を通じて「省資源・長寿命化・資源循環」に努めるとともに、節水および水リスク管理の徹底により水資源保護に努める。 |
| 5-4 | 化学物質の管理 | 製品に使用される化学物質の情報を取引先と共有し、かつリスクの高い物質の使用を抑制することにより、ステークホルダーの健康および自然環境への影響の少ない製品の提供を図る。 |
| 5-5 | 生物多様性への配慮 | 持続可能な木材調達を通じた森林保護を推進するとともに、周辺環境との調和に配慮した街づくりや緑化に努める。 |

(3) 物品ガイドライン

| |
|---------------------|
| ①化学物質管理ガイドライン【基本編】 |
| ②生物多様性ガイドライン【木材調達編】 |

関連ページ ▶ P199～200 CSR調達ガイドライン

マネジメント

大和ハウス工業では、CSR調達ガイドラインの「取引先行動規範」において環境保全の取り組みに関する基本原則を定め、資材調達先である「トリリオン会」、生産・施工協力会社である「協力会連合

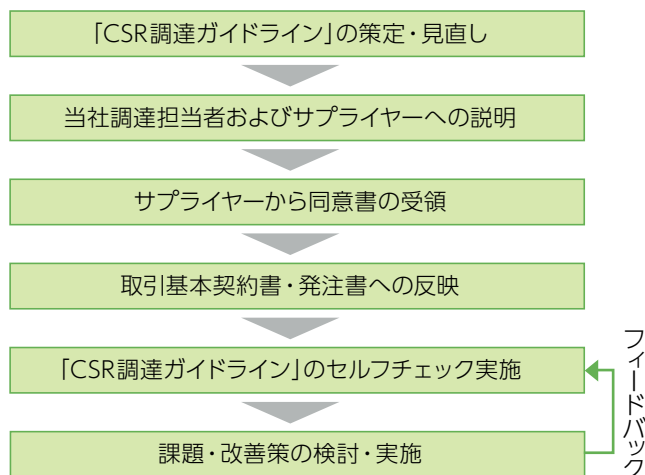
会」、設備機器調達先である「設和会」という3つのサプライチェーン組織を通じて、環境への取り組みに関して協働しています。

サプライヤーにおける環境方針の浸透

当社では、2015年度にサプライヤーに対して「CSR調達ガイドライン」の説明会を実施し、2016年度にはグループ会社5社(ロイヤルホームセンター、デザインアーク、大和リース、フジタ、コスモスインシア)、さらに2018年度は大和ハウスリフォームにも拡大し、それぞれのサプライヤーに対して同様の説明会を実施しました。これらの説明会等を通じて調達段階における環境負荷低減および環境リスク低減の重要性についてご理解いただいたうえで、サプライヤーから当社グループの「CSR調達ガイドライン」に対する同意書を受領しています。当社の同意書の回収率は2018年12月現在で98%(4,952社)となっています。

また、サプライヤーが「CSR調達ガイドライン」の取り組みや進捗を確認できる仕組みとして、Web サイト上でセルフチェックを実施しています*。なかでも環境に関しては、環境法令の遵守状況や、気候変動への対応状況などをチェックできる内容となっています。サプライヤーによるセルフチェックは隔年で実施されており、2017年5月時点で15%(586社)の回答率にとどまっていますが、2019年度は設問内容を見直すとともに、セルフチェックの実施率を向上させる目標を定め、改めてセルフチェックの実施を呼びかける予定です。

*対象は、資材調達先(トリリオン会)、設備機器調達先(設和会)、生産・施工協力会社(協力会連合会)。



関連ページ ▶ P106 CSRの取り組みにおける取引先への働きかけ

サプライチェーンモニタリング

サプライチェーンにおける取り組みの推進やリスクを発見するため、各サプライチェーン組織を通じてサプライヤーへの働きかけを行っています。

施工現場や工場における協力会社(すべての1次下請会社)に対しては、廃棄物の処理などに関するチェックリストをもとに推進状況の把握やモニタリングを実施。問題があれば、その都度是正を行うほか再発防止のための改善活動を通じて管理体制を強化するとともに、協力会社の従業員を対象に教育を行っています。

2017年度から主要サプライヤーに対して、従来のセルフチェックでは把握できていなかった温室効果ガス排出量の削減目標や実施結果、実績数値などを確認するためのアンケート調査を実施しています。このアンケート調査は1次サプライヤーに加え、一部の2次サプライヤーも含めて実施しています。2018年度は、主要サプライヤー250社に対して、アンケート調査を実施し、54%(大和ハウス、大和リース、フジタの合計)のサプライヤーが温室効果ガス排出量の削減目標を設定していることを確認しました。今後、2021年度までに主要サプライヤーの90%以上に温室効果ガス排出量削減目標を設定していただくことを目指しています。

あわせて将来の水リスクに備えるため、2018年度からはサプライヤーの取水・排水量や、海外工場が立地する流域など、水リスクに関する質問も追加し、状況を把握しています。

また、木材については、当社の購入する物品の中でも環境・人権等に関わるリスクが高いことから、当社およびグループ会社6社が管轄するサプライヤーに対して、年1回の「木材調達調査」を実施しています。この調査では、木材の合法性および持続可能性についてモニタリングを行い、2018年度は基準に満たない木材の調達先9社に対して、ヒアリングや是正依頼を行いました。

さらに、化学物質については、主要な建材について化学物質使用状況報告シートを提出していただき、ガイドラインに沿った内容かどうかをチェックするとともに、よりリスクの低い製品への代替についても依頼しています。

今後は、セルフチェックや各調査の結果をふまえ、重点的に改善すべき項目を洗い出し、当社グループとサプライヤーが協働し、相互監査や情報共有等を実施することにより、活動レベルの向上を図ります。

■サプライヤー組織での主な取り組み

| | サプライヤー(組織名) | 会員数 | 主な取り組み |
|-------|-------------------|--------|---------------------------|
| 調達 | 資材調達先(トリリオン会) | 241社 | 工場省エネ診断、設備更新、協働省エネプロジェクト |
| | 設備機器調達先(設和会) | 159社 | 環境配慮技術の共同開発、技術展示会・セミナーの開催 |
| 生産・施工 | 生産・施工協力会社(協励会連合会) | 4,640社 | 生産・施工現場での改善プロジェクト、優秀事例表彰 |

(2019年5月1日現在)

■サプライヤーの温室効果ガス排出量削減目標設定率(2018年度)

| | 主要 サプライヤー数 | 温室効果ガス排出量削減目標設定率 | |
|-------|---------------|------------------|-----------|
| | | 2018年度 実績 | 2021年度 目標 |
| 大和ハウス | 217社 | 54% | 90%以上 |
| 大和リース | 27社 | | |
| フジタ | 6社 | | |

(2019年3月末現在)

関連ページ P167 取引先を対象とした木材調達調査の実施
P180 「化学物質管理ガイドライン」の運用
P219 環境データ 長期目標に対する進捗状況

サプライヤーへのサポート体制

当社では、サプライヤーの組織ごとに事務局を設け、運営をサポートしています。各サプライヤーは、当社の事務局と協働で年度ごとに重点テーマとプロジェクトを選定し、環境等への取り組みを推進しています。

トリリオン会では、2017年度より会員企業による「研修研鑽活動」を実施しています。環境をはじめとする各種講演会や、会員各社のオフィスや生産工場の見学会を通じて、当社グループの環境方針の浸透や、環境への取り組みをサポートしています。2018年度は、サプライチェーンにおける持続可能な調達をテーマに有識者による講演会を実施し、サプライチェーン全体で環境負荷低減に取り組むことの重要性を共有しました。

協励会連合会では、施工現場の3R活動や省CO₂施工などの環境負荷低減につながる改善事例を、コンテストや会員誌を通じて共有し、水平展開を図っています。設和会では、会員各社の環境などの新しい技術に関する商品技術展示会やセミナーなどを共催し、環境配慮技術の普及を進めています。



設和会「商品技術展示会」の様子



トリリオン会「研修研鑽活動」の様子

グローバル・コンパクト加盟企業と サプライチェーンへのCSR調達の普及について協働

当社では、2018年度からグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンに加盟し、複数の分科会に参加しています。なかでも、サプライチェーン分科会では、加盟企業と協働してサプライチェーンにおけるCSR調達の普及に取り組んでおり、サプライヤーにCSR調達の重要性を理解していただくための手引書や、サプライヤーとの情報共有を効果的に進めるための情報共有プラットフォームである共通SAQ※の普及・改訂を進めています。

※CSR調達セルフ・アセスメント質問表

関連ページ P183 外部との協働